



< 2 1 - 2 2 >

2021年11月

先生各位

## 新規受託項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

このたび下記検査項目の受託を開始いたしますので、ご利用いただきたくご案内申し上げます。

謹白

記

### ■新規受託項目:

- ・ 特異的IgE Asp f 1(アスペルギルス由来) [項目コード:2058]

### ■新規受託開始日:

2021年 11月 1日(月)受付分より

以上

※ 裏面をご覧ください。

特異的 IgE検査では主に粗抽出抗原が用いられており、その中には様々なタンパク質が含まれています。粗抽出抗原の構成成分のうち特定の成分をアレルゲンコンポーネントと呼びますが、それらにはアレルギーの症状誘発に関連、あるいはアレルゲン特異的な成分が含まれており、それらを個々に検査することは、真のアレルギー起因物質を特定するのに有用とされています。

## ●特異的 IgE Asp f 1 (アスペルギルス由来)

アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (allergic bronchopulmonary aspergillosis: ABPA) はアスペルギルス属真菌を原因とするアレルギー性気管支肺真菌症です。喘息患者や嚢胞性線維症患者にみられることが多く、孢子として吸入されたアスペルギルスが気道内で発芽・定着(腐生)することで I 型アレルギーと III 型アレルギー反応を誘発し、発症します。重症喘息患者のなかに潜在している例も多く、再発を繰り返すと肺の線維化や呼吸不全に至ることもあり、早期の診断と治療(経口ステロイド薬と経口抗真菌薬)が重要であると考えられています。

ABPAの原因真菌は *Aspergillus fumigatus* (アスペルギルス・フミガーツス) が最も多いと報告されています。既存の粗抽出アレルゲンは臨床的感度が高い一方、非ABPAでも陽性を示すことがあります。

Asp f 1 はアスペルギルス・フミガーツス由来のアレルゲンコンポーネントの一つです。Asp f 1 は孢子に含まれずアスペルギルス・フミガーツスの発芽後に分泌されるため、Asp f 1 の感作はアスペルギルス・フミガーツスの気道内定着(腐生)が示唆されます。

本検査は、既存の特異的 IgE アスペルギルスよりも臨床的特異度が高く、粗抽出アレルゲンと組み合わせて測定することは ABPA の精度の高い診断に有用と考えられます。

## ■検査概要:

|          |                                             |
|----------|---------------------------------------------|
| 項目コード    | 2058                                        |
| 検査項目名    | アスプ エフ ワン<br>特異的 IgE Asp f 1 (アスペルギルス由来)    |
| 検体量/保存方法 | 血清 0.3 mL / 冷蔵                              |
| 検査方法     | FEIA法                                       |
| 基準値      | 0.35 U <sub>A</sub> /mL 未満                  |
| 所要日数     | 2 ~ 4 日                                     |
| 検査実施料    | 110 点 ([D015] 血漿蛋白免疫学的検査「13」特異的 IgE 半定量・定量) |
| 判断料      | 144 点 (免疫学的検査判断料)                           |

(判定基準)

| 判定  | クラス | U <sub>A</sub> /mL |
|-----|-----|--------------------|
| 陰性  | 0   | 0.35 未満            |
| 弱陽性 | 1   | 0.35 ~ 0.69        |
| 陽性  | 2   | 0.70 ~ 3.49        |
|     | 3   | 3.50 ~ 17.49       |
|     | 4   | 17.50 ~ 49.99      |
|     | 5   | 50.00 ~ 99.99      |
|     | 6   | 100 以上             |